

平成 23 年度

## 鹿児島市小中連携研修会【郡山地区】

### 研究主題

郡山地域の子ども一人一人の「生きる力」を育むために、  
小・中連携はどのようにあればよいか。



23年5月30日（月）

鹿児島市立郡山中学校

## 1 研究主題

郡山地域の子どもの一人一人の「生きる力」を育むために、小・中学校連携はどのようにあればよいか。

## 2 共通実践事項

朝の生活リズムを整えよう ～マイスケジュールを活用して～

## 3 研究の視点

視点1 確かな学力の育成 (ICT活用, 言語活動)

視点2 生活指導 (共通実践事項について)

## 4 日程・会場

時刻	活動	会場
13:50～14:10(20)	受付	正面玄関
14:10～15:00(50)	参観授業(授業公開)	各教室
15:00～15:25(25)	移動・準備	図書館
15:25～15:55(30)	グループ討議 第1分科会(学習) 第2分科会(生徒指導)	図書館 美術室
15:55～16:20(25)	全体会	図書館
16:20～16:30(10)	指導助言	図書館
16:30～16:35(5)	閉会の挨拶(郡山中 神野校長)	図書館

	教科	単元名など	授業者名	場所
1年1組	音楽	「春」	佐多 由美子 教諭	北舎2階 音楽室
1年2組	英語	Unit2 学校で	鶴狩 歌織 教諭 永田 博美 教諭	南舎1階 1年2組
2年1組	国語	壁に残された伝言	梶田 朋子 教諭	南舎2階 2年1組
2年2組	美術	多様な表現を求めて ーパステル静物画ー	岩元 達郎 教諭	北舎2階 美術室
2年3組	数学	図形の性質の調べ方	寺田 敦 教諭	南舎2階 2年3組
3年1組	理科	遺伝	佐竹 祐嗣 教諭	北舎1階 理科室
3年2組 少人数	数学	因数分解	木場 康彦 教諭 岡村 昌宣 教諭	南舎3階 多目的室 南舎3階 3年2組

## 5 全体会・グループ討議の係

分科会・全体会	進行	司会者	記録者	指導助言者
第1分科会 (授業)		小田原 孝倫 教諭 郡山中学校	川之上 健一 教諭 郡山小学校	廣守 幹夫 校長 郡山小学校
第2分科会 (生徒指導)		宮内 幸雄 教諭 郡山中学校	今福 茂 教諭 花尾小学校	折田 興一 校長 花尾小学校
全体会	佐竹 祐嗣 教諭 郡山中学校	鶴田 由美子 教諭 郡山中学校	濱渦 佳代 教諭 南方小学校	西園 和人 校長 南方小学校

## 6 会順

### 分科会

- (1) 開会の言葉(司会者)
- (2) 視点について各学校からの提案, 報告
- (3) 質疑応答及び意見交換
- (4) 指導助言

### 全体会

- (1) 開会の言葉(進行)
- (2) 係の紹介(進行)
- (3) 全体協議
  - ①分科会の協議内容報告(分科会記録者)
  - ②質疑応答及び意見交換
  - ③平成23年度 共通実践事項の提案
- (4) 指導助言 (南方小学校)
- (5) 閉会の挨拶(郡山中学校 神野重徳校長)
- (6) 閉会の言葉(司会者)

## 7 小中連携研修会 研究会記録

### 第1分科会

テーマ:生きる力を育むための小中連携 確かな学力の育成に向けて

各学校より

郡山中学校

- ・ ICT を活かした指導法の工夫, 改善
- ・ 基礎的な内容を確実に習得する
- ・ 習得したことを活用し, 課題について考えを深めめる

南方小学校

ICT の活用法

- 1 教育用 PC をつかって調べ学習
- 2 大型 TV の活用(イメージメイトで記録→次時で活用)

デジタル素材集, 英語 DVD, フリーソフト(算数などで), 体育のマット運動などで  
言語活動を高める

授業と読書指導との連携

(朝:書きタイム, 作文タイム)ラジオ作文 まず「きく」姿勢をしっかりと 全職員で

花尾小学校

少人数での良さを活かして指導

学習

- ・ わかる授業の展開, めあて→まとめ の徹底 板書
- ・ 問題解決的な学習
- ・ 発表話形
- ・ 複式学習(ガイド学習)の進め方を身につけさせる。

その他

- ・ 行間, 15分ドリルタイムとして計算, 漢字に取り組む。伝えタイム(詩や文の発表, 群読)
- ・ 家庭学習(家庭との連携)
- ・ 読書との連携(読書好きな子を育てる工夫)

郡山小学校

授業の充実

研修をベースに, 体験的な活動を中心に取り組み, 楽しく授業をおこなう。

→準備が大変 ICT を利用してよりよい授業を デジタル教科書を購入→活用

ワイヤレストラックボールマウスの導入 教室内の離れたところから PC 画面を操作

家庭学習の充実

「学習の仕方」文書を配布, 家庭に掲示

質疑応答

例えば中学校の理科で, 顕微鏡観察の手際がよいといった姿がある。小学校での学習経験が生きている。 今後 (ICT) 大型 TV をつかって子どもたちが発表できると良い。

「手引き」について→中学校でも有効である。

## 指導助言

- ・ 中学校の授業 前を向きよい授業をつくっている。
  - ・ 指導案が揃っている。(ICTの活用：視点)
- 1 言語活動を位置づけ、学校全体で取り組むこと
  - 2 学習の見通しを持たせ、子どもが活躍する場をつくること
  - 3 家庭との連携を図ること

## 第2分科会

### テーマ:生活指導(共通実践事項について)

#### 郡山中学校

##### 朝の生活リズム

8:10 生徒玄関通過

8:15 朝読書開始

毎週木曜日 ふれあい読書

ボランティア朝清掃活動

静→動へ スムースな流れ

#### 郡山小学校

##### 朝起床～登校スケジュール

学校としての共通実践事項 明るく元気な挨拶

#### 南方小学校

##### マイスケジュール作成

帰宅～就寝までできれば、朝のリズムも良くなるのではないかという仮説のもと実施

日曜参観時に親子で作成 途中で確認

週末の過ごし方が課題 家庭－学校の連携

#### 花尾小学校

学年毎にチェックカード 中間報告有り(3月)

朝ご飯だけ(30%超) 就寝時刻(遅い)

## 質疑応答

花尾小学校へ 学年のチェック項目はどのように決めているのか。

→学校保健委員会の時に保健委員と教師で決めた。

朝起きる適切な時刻は。

→集団登校に合わせて平均 6:30 5:30～7:00

南方小学校 低学年 10時間 中学年 9時間 高学年 8時間の平均睡眠時間

朝は起こされるのか。自ら起きるのか。

→「自ら起きる」という項目があっても良いのではないか。

- ・ チェックカードの結果をもとにした指導など、いかにすればよいか。

個別指導 養護教諭－担任の連携

- ・早起き→早めの睡眠

夜更かしの理由は 少年団，習い事で遅くなる 兄弟・両親が起きているから ドラマを視聴  
中1 宿題が追いつかない 部活動の疲れ 宿題の量

#### 指導助言

- ・生活習慣 親の生活に左右されているという記事が多い→ 朝ご飯 夜更かし  
→子どもを変えよう。子どもが変われば親が変わる
- ・実態調査  
何のための調査か → データを結果として保護者に示す  
足並みをそろえる 子どもにはわかる  
睡眠時間 1.5 時間の倍数で  
良い行動を見つけてほめること

#### 全体会

##### ① 分科会の報告 第1分科会 第2分科会

##### ② 質疑応答及び意見交換

質疑なし

##### ③ 平成23年度 共通実践事項について

- ・マイスケジュールを書かせているが，集約，集計がうまくできていないので，活用という部分が課題である。そのことに取り組んでみたらどうか。(郡山小)
- ・マイスケジュールを反映しているのか，今年度に引き続きマイスケジュールを活用しての，活用をどうもっていくのか。(司会)
- ・共通実践というところまでいきにくいので，もう一度引き続きやってみると良いのではないか。(郡山中)
- ・今年はマイスケジュールを日曜参観で立ててみる。まずは親子でしっかりスケジュールをたてて，途中での確認，見直しもして，つくりっぱなしにならないように，今年に取り組もうと考えている。(南方小)
- ・今年もすでにこの実践に取り組んでいるところもあるので，どういう風に活用できたのかという報告が出来ると良いですね。(司会)
- ・授業の中で言語活動を高めるために ICT 活用(書画カメラ)がすごく有効的に使われていたので，そのことで取り組んでいけたらよいのではないか。(郡山小)
- ・書画カメラで写すということでノートを工夫して書く。表現活動の力が養われていく。また，ノートをまとめていくのが当たり前という姿勢が身につくと良いのではないか。(郡山中)
- ・来年度の実践事項は本年度と同じで取り組んでいきましょう。(司会)

#### 指導助言

- ・子どもたちが熱心に授業に取り組んでいた。分科会では各学校の意見交換が活発にされ意義があった。
- ・朝のリズムを整えよう。＝朝何をしているのか。小1～中3 なるべく早く起きる，洗顔，朝食，身支度など発達段階に応じて，しっかりできているのか。家庭との連携を図って，踏み込

んだ実践をしていく必要がある。家庭の教育力が落ちてきている。気づかないで子育てしている家庭も増えている。気づかせるためにマイスケジュールを意識させるでも大きな意味がある。出来るだけ徒歩で登校。出来ない場合は、朝、軽い運動、ボランティアなど体を動かすことが子どもたちに役立つ。

- ・「確かな学力」について ICT 活用については、大きな不安を感じている者もいる。コンピューターの機能を活かして教育をおこなう。ICT は教育を行うための道具である。機械に振り回されないように活用していく。少しずつ長い時間をかけて有効に使って、定着させていく。「生活指導」共通実践事項というのがあるが、授業も一緒。「学習のめあて」をしっかり板書。授業の核は(終始めあて)学校で共通にし、後は先生方の個性を生かす。
- ・「生活指導」でも「生活のしおり」を核に学校全体がきちんとした姿勢で全員が取り組むことが必要である。

## 8 今後の方向

### 研究主題(継続)

郡山地区の子ども一人一人の「生きる力」を育むために、小中連携はどのようにあればよいか。

### 共通実践事項(継続)

朝の生活のリズムを整えよう ～マイスケジュールを活用して～

視点1 確かな学力の育成 (ICT 活用 言語活動)

視点2 生活指導 (共通実践事項について)

### 具体的方途(本年度の実践の方向性)

#### 視点1について

授業では

- ・学習のめあて(板書)→まとめ、一本の道筋としてつながりのある学習過程を共通して実践する。
- ・言語活動を(指導案、指導過程などに)位置づけ、それぞれの学校で取り組む。☆
- ・ICT の活用は授業のねらいに迫る一つの方法として取り組み、具体例を残す。☆

家庭との連携では

- ・家庭学習の仕方を作成し、家庭に掲示するなど、家庭における学習習慣の確立に向けての取り組みを行う。(→視点2とも関わる)☆

#### 視点2について

- ・マイスケジュールについては作成し、保護者の協力を得るようにする。

保護者会、配布の方法などの工夫☆

生活習慣の定着への有効性について工夫して取り組み検証していく。☆

実践→アンケート→集計→傾向と対策→保護者へのはたらきかけ(新たな実践)→アンケート(取組の評価)

特に朝の生活習慣に目をむけた取組 (自分で起きたか?の項目設置)

- ・「生活のしおり」を基盤とした生活指導の徹底→交流が出来るように☆

\*さらに、24年度は特に上記の☆についての、取組(具体的な実践例)、成果(保護者、子どもの学力、意識、姿)などを交流できるようにしたい。